

噴火にも似た勇壮なる火柱

～幻想と神秘の八十八夜
鬼火が誘う地獄の谷～

6月1日(木)、地獄谷展望台周辺で『幻想と神秘の八十八夜 鬼火が誘う地獄の谷』（登別観光協会、市共催）が開幕しました。

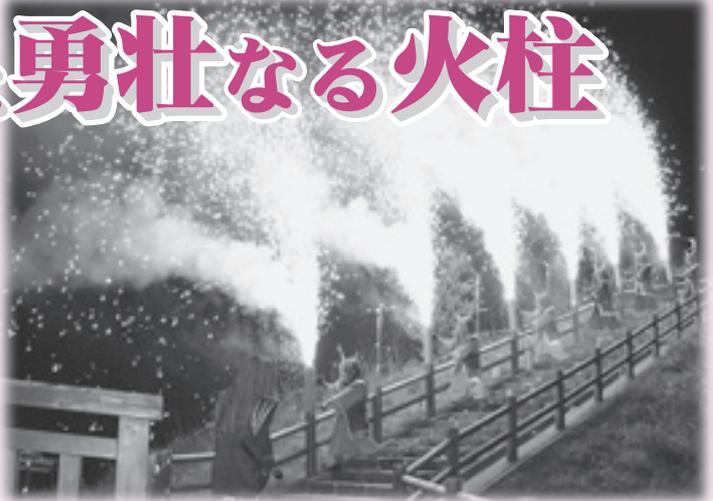
初日のこの日は、オープニングセレモニーが行われ、登別観光協会の上野会長（市長）が開幕を宣言し、訪れた観客にお酒が振る舞われました。

この催しは、登別観光協会と市が、観光客誘致のための新しい長期イベントとして開催しているもので、8月27日(日)までの88日間行われる『鬼火の路、幻想と神秘の谷』（19時30分～22時）と8月25日(金)までの毎週金・土曜日に行われる『地獄の谷の鬼花火』（20時30分～）の2つで構成されています。

『鬼火の路、幻想と神秘の谷』は、鬼祠から地獄谷の鉄泉池へ通じる歩道や遊歩道にフットライトを設置。かすかな足下灯に照らされた暗闇の地獄谷に立ち上る白煙と爆裂火口跡の山肌は幻想的で、これまでに見たことの無い地獄谷があり、大自然の神秘を演出しています。

『地獄の谷の鬼花火』は、ドラの音を合図に登場した登別温泉の湯の守り神でもある10人の『湯鬼神』が、特設ステージで、太鼓に合わせて、詰めかけた観客の病気や災難などの厄をすべて拾い集める踊りを披露。その後、6人の『湯鬼神』が手持ちの筒型花火に点火し、その厄を焼き払います。鬼花火は地獄谷の爆裂や噴火に似て、火柱は高さ約8mにまで噴き上がり、訪れた観客の目を楽しませています。

なお、このイベントは、荒天などで中止する場合があります。



日ごろの思いを熱弁

～第23回登別市少年の主張大会～

6月6日(火)、登別中学校の体育館で『第23回登別市少年の主張大会』（市、登別ライオンズクラブ、登別中央ライオンズクラブ共催）が行われ、地域の方や登別中学校の生徒が真剣に発表を聞いていました。

はじめに、主催者を代表して、登別中央ライオンズクラブの梅木恭子さんが、「力いっぱい頑張って発表してください」と激励。その後、市内5つの中学校からそれぞれ選ばれた2人が参加し、日ごろ感じていることや家族、学校生活などをテーマに発表していました。

この大会の結果、『家族の絆』をテーマとした西陵中学校3年の今田麻奈未さんが最優秀賞、鷺別中学校3年の竹中駿君が優秀賞、登別中学校3年の越野敬太君が奨励賞、緑陽中学校2年の田中晴菜さんが努力賞に輝き、最優秀賞の今田さんは胆振支庁地区大会に登別市の代表として出場することになりました。



▲最優秀賞を受賞した西陵中学校3年の今田さん